

会津若松地方広域市町村圏整備組合

令和3年度 ごみ減量実施計画の進捗状況

令和4年5月

1) ごみ減量実施計画の進捗状況について

1 ごみ減量実施計画の概要について

(1) 目的

環境負荷の低減に向けた資源循環型社会の構築を目指し、構成市町村の住民、事業者、行政がおこなうべき具体的なごみ減量の取組、数値目標を設定し、ごみ減量とリサイクルを推進することを目的として令和2年3月に策定したものです。

(2) 主なごみ減量の取組

目標を達成するためには、効率的かつ効果的なごみ減量の施策を推進することが必要であり、ごみの排出状況と課題を踏まえながら取組んで行くものです。

- ① 紙ごみのリサイクル 《重点施策》
- ② 生ごみの減量 《重点施策》
- ③ ごみの分別、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

(3) 計画期間 令和2年度から令和7年度まで

(4) ごみ排出量の目標値及び各市町村の施策

① 表-1 数値目標値

項目	基準年 (平成30年度)	目標年度 (令和7年度)	削減量	削減率 (%)
総排出量(t)	74,179	58,328	△15,851	△21.4
1人1日当たりの排出量(g)	1,094	938	△156	△14.3
燃やせるごみの排出量(t)	61,123	44,909	△16,214	△26.5
燃やせるごみの1人1日当たりの排出量(g)	902	722	△180	△20.0
リサイクル率(%)	13.9	21.3	7.4	—

※参考 1人1日当たりの排出量 全国平均 918g (平成30年度 一般廃棄物処理実態調査)

リサイクル率 全国平均 19.6% (平成30年度 一般廃棄物処理実態調査)

② 各市町村の主な施策

- ・ 広報誌、住民説明会等による分別・リサイクルの周知・啓発活動の強化
- ・ 小型家電、古着等の集団回収、イベント回収の推進
- ・ 子ども服等の古着類のリユースの推進
- ・ 事業者への分別・リサイクル徹底の指導
- ・ 福島県の食品ロス推進事業の周知
- ・ 家庭ごみの有料化の検討

(5) 進行管理

ごみ減量の取組状況や目標値の達成状況などを定期的にチェック・評価し、施策の改善を行い、Plan(計画)、Do(施策の実行)、Check(点検)、Act(見直し)のPDCAサイクルの手法により実施するものです。

2 令和3年度 ごみ減量実施計画の進捗状況について

(1) 施策の実施状況

令和2年度に引き続きコロナ禍の影響により地区説明会や集団回収等が中止となり、実施できない状況もあったが、古着類のリユース活動、事業系ごみのガイドブック作成・チラシの配布等を実施した。

(2) 減量化の進捗状況 P 4～6

① 総排出量、燃やせるごみの排出量

ごみ全体の排出量では、緩やかに減少しているものの、集団回収の実績が減少しており、コロナ禍による減量の取組みが鈍くなっている状況が見受けられる。リサイクルの取組は進められているものの家庭系、事業系ともに減少量が少なくなっている。

また、燃やせるごみについては、全体の排出量、1人1日当たりの排出量ともに減少傾向となっている。

経年的には減少傾向が続いているが、計画排出量には達していない。

② リサイクル率

平成30年度、令和元年度、令和2年度と減少していたが、資源化量の実績増に伴い令和3年度は増加した。

(3) ごみ質検査結果 P 6

ごみ減量・リサイクルに活用するため、これまでの6組成の検査から20項目に細分化し検査を実施している。(令和2年度から実施)

検査結果においては、再生可能な資源物の混入割合が、紙・布類で32%、ビニール類で約16%、合計で約48%が含まれている結果となった。

3 各市町村の主な実施状況について

- (1) 雑がみの分別を推進するため保管袋及び雑がみ分別徹底のチラシを配布した。
- (2) 庁内のごみの減量化を図った。
- (3) 職員によるごみステーションでの立ち合い、排出確認・啓発を実施した。
- (4) ごみ情報誌、事業系ごみのガイドブック作成・配布しごみの適正排出と削減の啓発を図った。
- (5) ダンボールコンポストの体験モニター募集を行い実施した。
- (6) こども服のおさがりボックス設置、小型家電・古着のイベント回収を行った。
- (7) 生ごみ水切り器を全世帯配布。

4 今後の方向性について

(1) 目標達成に向けた取組 ≪①、② 重点目標≫

区分	住民	事業者	行政
①紙ごみのリサイクル	雑がみ・段ボール・新聞・雑誌の分別徹底とリサイクル	事務文書や紙類のリサイクル、ペーパーレス化、過剰包装の抑制	雑がみの分別・紙ごみのリサイクルに対する周知・啓発活動
②生ごみの減量	生ごみの水切りの徹底、コンポスト容器等の活用、食品ロスの削減	3010運動 [※] 呼びかけ、売れ残り食品の適正なリサイクル	コンポスト等の導入助成の拡大、福島県の食品ロス推進事業の周知
③ごみの分別、3Rの推進	紙類・プラスチック製容器包装の分別、集団回収への参加	リサイクル業者の活用、商店街・工業団地等の資源物の共同回収	リサイクルに係る新しい分別品目の検討、分別徹底に関する周知・啓発

※宴会時の最初30分と最後の10分は料理を楽しみ、美味しく食べきる。

(2) 令和4年度 各市町村の主な施策

- ・町内会との協働によるごみステーションへの立ち合い、排出確認を行う。
- ・ごみ情報誌の継続発行、事業系ごみガイドブックを用いて研修会の開催。
- ・こども服のおさがりボックスを幼稚園に設置について検討。
- ・コンポスト等のごみ減量効果の検討。
- ・小型家電・古着イベントの継続。
- ・分別収集・再資源化の周知及び説明会の実施。
- ・雑がみ再資源化の強化

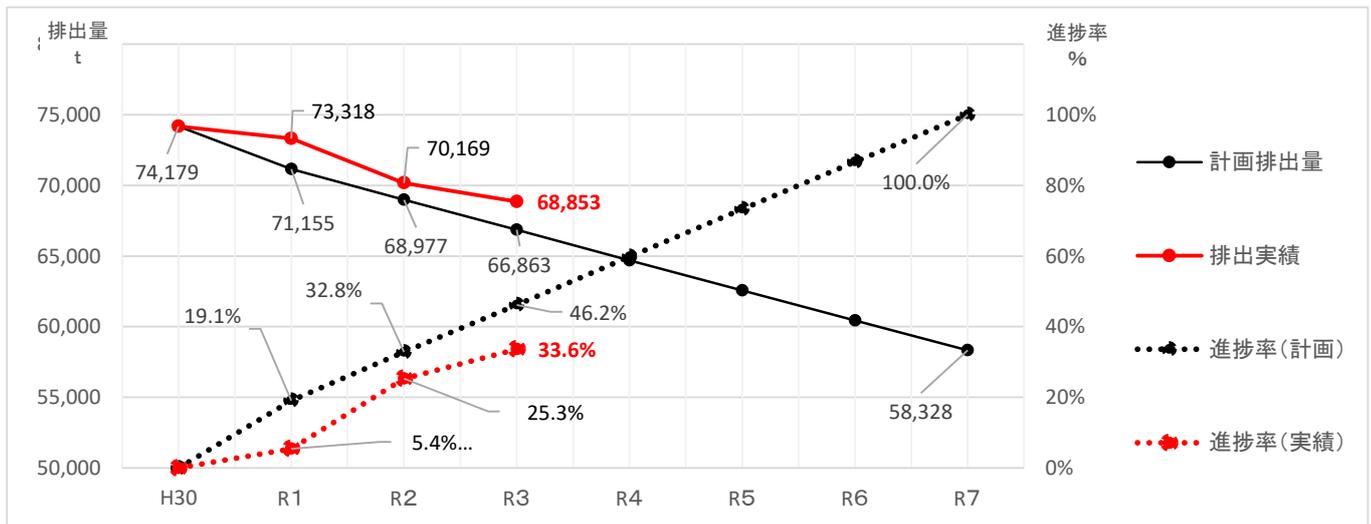
【減量化の進捗状況】

① 総排出量

単位：t

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)	
計画排出量	74,179	71,155	68,977	66,863	64,696	62,558	60,435	58,328	
内訳	家庭系	50,248	48,721	47,412	46,155	44,843	43,561	42,288	41,032
	事業系	21,456	19,455	18,591	17,735	16,882	16,028	15,179	14,331
	集団回収	2,475	2,979	2,974	2,973	2,971	2,969	2,968	2,965
	削減目標 ^{※1}	0	△ 3,024	△ 5,202	△ 7,316	△ 9,483	△ 11,621	△ 13,744	△ 15,851
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	19.1%	32.8%	46.2%	59.8%	73.3%	86.7%	100.0%	
実績	74,179	73,318	70,169	68,853					
内訳	家庭系	50,248	50,030	48,949	48,387				
	事業系	21,456	21,293	18,894	18,630				
	集団回収	2,475	1,995	2,326	1,836				
削減実績 ^{※1}	0	△ 861	△ 4,010	△ 5,326					
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	5.4%	25.3%	33.6%					
取組の結果	<p>実施計画では、削減目標を△7,316 tとしていたが、削減実績は、△5,326 tであった。進捗率は、実績が33.6%で、目標とする46.2%には、12.6%届いていない。 前年度と比較し家庭系(△562 t)、事業系(△264 t)ともに減少となった。リサイクルの取組みに加えコロナ禍の影響もあり、全体的に減少したものと考えられる。集団回収については、実施回数の削減・中止のため、回収量が少なくなったと考えられる。</p>								

【グラフ-1 総排出量及び削減量】



② 1人1日当たりの排出量

単位：g

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画排出量	1,094	1,064	1,044	1,025	1,004	982	960	938
削減目標 ^{※1}	0	△ 30	△ 50	△ 69	△ 90	△ 112	△ 134	△ 156
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	19.2%	32.1%	44.2%	57.7%	71.8%	85.9%	100.0%
実績	1,094	1,091	1,067	1,070				
削減実績 ^{※1}	0	△ 3	△ 27	△ 24				
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	1.9%	17.3%	15.4%				
取組の結果	<p>実施計画では、削減目標を△69 gとしていたが、削減実績は△24 gであった。進捗率は、実績が15.4%で、目標とする44.2%には、28.8%届いていない。</p>							

※1 削減量；平成30年度（基準年）と計画及び実績の差

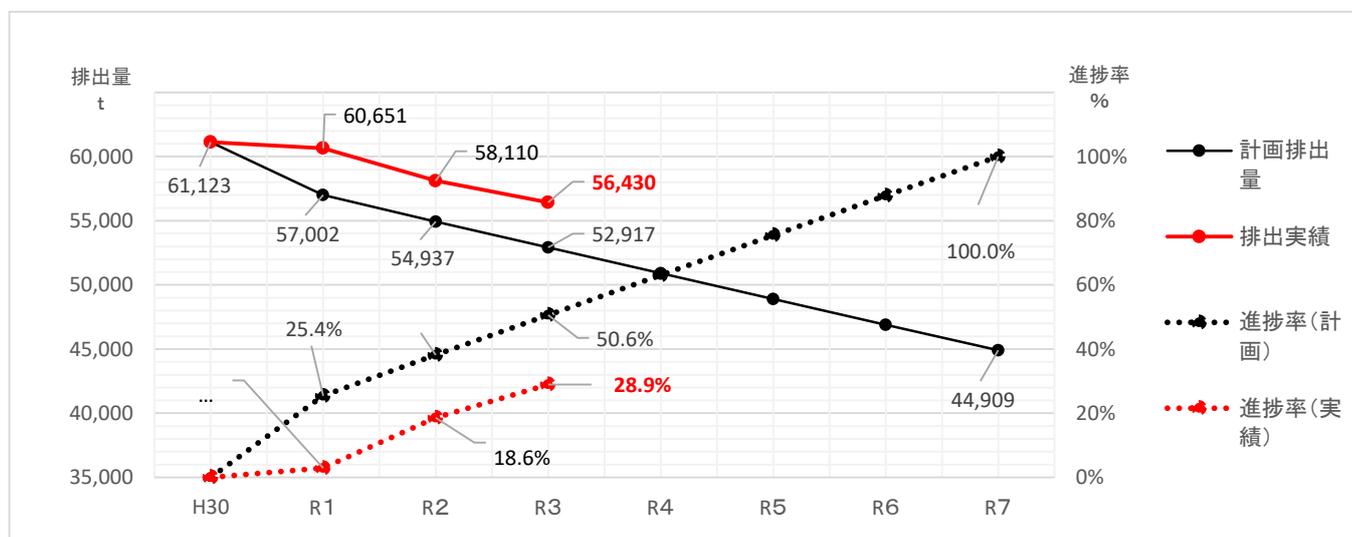
※2 進捗率；令和7年度の計画削減量を「100」とした場合の当該年度削減の計画及び実績の割合

③ 燃やせるごみの排出量

単位：t

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画排出量	61,123	57,002	54,937	52,917	50,900	48,888	46,884	44,909
内訳	家庭系	40,084	37,964	36,759	35,591	34,424	33,262	32,103
	事業系	21,039	19,038	18,178	17,326	16,476	15,626	14,781
削減目標 ^{※1}	0	△ 4,121	△ 6,186	△ 8,206	△ 10,223	△ 12,235	△ 14,239	△ 16,214
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	25.4%	38.2%	50.6%	63.1%	75.5%	87.8%	100.0%
実績	61,123	60,651	58,110	56,430				
内訳	家庭系	40,084	39,920	39,462	38,011			
	事業系	21,039	20,731	18,468	18,419			
削減目標 ^{※1}	0	△ 472	△ 3,013	△ 4,693				
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	2.9%	18.6%	28.9%				
取組の結果	実施計画では、削減目標を△8,206 tとしていたが、削減実績は、△4,693 tであった。進捗率は、実績が28.9%で、目標とする50.6%には、21.7%届いていない。 前年度との比較で事業系(△49 t)より、家庭系(△1,451 t)の削減量が多くなっている。燃やせるごみの減量は進んでいるものの、目標値からは乖離しているためさらに取組みを強化していく必要がある。							

【グラフ-2 燃やせるごみの排出量及び削減量】



④ 燃やせるごみ1人1日当たりの排出量

単位：g

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画排出量	902	852	832	811	790	768	745	722
削減目標 ^{※1}		△ 50	△ 70	△ 91	△ 112	△ 134	△ 157	△ 180
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	27.8%	38.9%	50.6%	62.2%	74.4%	87.2%	100.0%
実績	902	903	884	877				
削減実績 ^{※1}		1	△ 18	△ 25				
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	-0.6%	10.0%	13.9%				
取組の結果	実施計画では、削減目標を△91 gとしていたが、削減実績は、△25 gであった。進捗率は、実績が13.9%で、目標とする50.6%には、36.7%届いていない。							

※1 削減量；平成30年度（基準年）と計画及び実績の差

※2 進捗率；令和7年度の計画削減量を「100」とした場合の当該年度削減の計画及び実績の割合

⑤ リサイクル率

単位：%

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画率①	13.9%	17.6%	18.1%	18.7%	19.3%	19.9%	20.6%	21.3%
実績②	13.9%	12.8%	12.7%	13.9%				
②-①		△ 4.8%	△ 5.4%	△ 4.8%				
取組の結果	リサイクル率は、年々減少していたが、令和3年度は増加した。計画率は18.7%としていたが、実績は13.9%であり△4.8%少なく目標に達していない。							

※ 令和3年度；環境センターへの搬入実績及び市町村からの調査回答を基に算出。

【ごみ質検査結果】

① ごみの組成

単位：%

種別	H30 (基準年)	R 2	R 3
紙・布類	53.3	45.3	51.7
内訳			
段ボール		2.6	2.9
新聞・ちらし		4.8	3.0
雑誌・包装紙 コピー紙		15.0	18.5
空き箱		3.8	7.6
ティッシュ・ キッチンペーパー		5.1	6.9
紙おむつ		3.9	0.7
その他の紙類		4.3	5.6
布類		5.8	6.5
ビニール・樹脂等	25.7	19.7	21.9
内訳			
容器包装類		12.1	15.9
ゴム皮類		6.0	1.0
その他のプラ		1.6	5.0
木・竹・わら	5.6	9.6	8.8
厨芥類	10.4	11.1	7.1
その他	5.0	14.3	10.5

② 3成分

単位：%

種別	H30 (基準年)	R 2	R 3
水分	48.3	40.5	38.2
可燃分	47.0	50.2	53.5
灰分	4.7	9.3	8.3

令和3年度 ごみ質検査結果の検証

ごみ質検査結果で、再生可能な資源物が混入していた。紙・布類で38%（段ボール、新聞紙ほか）、ビニール類が16%（容器包装類）であり、ごみ全体の54%（※約30,000 t）に及ぶ資源物が含まれていた。

ごみの組成では、紙・布類の排出割合が、約半分を占め、また、3成分では、水分が減少している。水切りの取組などによる効果とも考えられる。

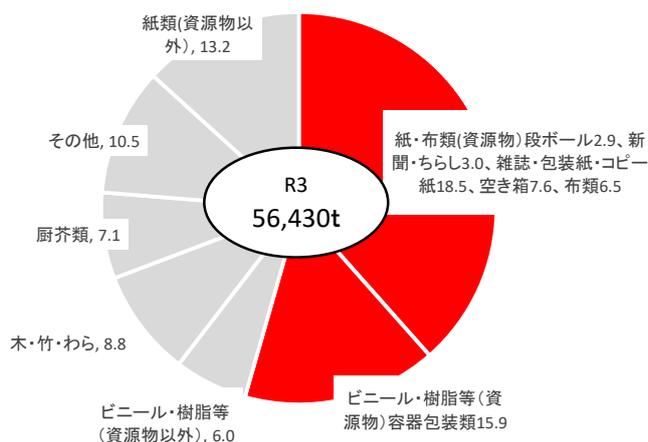
※ 30,000 tは、令和3年度の燃やせるごみの排出量（56,430 t）に、ごみ質検査の割合（38+16=54%）を乗じて算出。（100 t未満切り捨て）

※ 生ごみの水切りの効果

一般的に生ごみの約80%は水分で、水切りをすることにより、重量の約8~10%を減らすことが出来ると言われています。令和3年度で、約400 tのごみの削減が見込まれます。
400 t = 56,430 t × 7.1% (厨芥類の割合) × 10.0% (削減割合)

【グラフー3 令和3年度 ごみの組成】

単位：%



【グラフー4 令和3年度 ごみの3成分】

単位：%

